

【研究名】：胃癌術後補助化学療法 S-1 における薬薬連携のアウトカム

【研究目的】

経口抗がん剤治療の有効性と安全性を担保するために、病院と保険薬局の連携による院外処方せんの安全管理、情報共有が不可欠ですが、全国的に統一されたものは見当たりません。愛媛大学医学部附属病院（当院）では、2013年10月より院外処方せんにおくすり伝言板および副作用モニタリングシートを作成し、病院と保険薬局間における双方向性の情報共有システムを開始しました。この取り組みが経口抗がん剤治療の有効性と安全性に与える影響は調べられていません。そこで、本取り組みが胃癌術後補助化学療法 S-1 の治療成績と副作用マネジメントに与える影響を評価します。

【研究意義】

当院の双方向性の情報共有の有用性は保険薬局薬剤師を対象に評価しましたが、患者さんの経口抗がん剤治療の有効性、安全性に与える影響は不明です。これらの評価は、副作用モニタリングシートを活用した保険薬局による副作用モニタリングが、胃癌術後補助化学療法 S-1 の治療効果の改善に繋がり、国内における病院と保険薬局との連携普及に繋がることが期待されます。

【調査の対象となる患者さん】

2006年8月～2016年2月の間に胃癌術後補助化学療法 S-1 治療を受けた患者さん
(地域連携パスや他院転院となった患者さん、胃癌 stageI で術後補助化学療法 S-1 治療を受けた患者さんは除外)

【方法】

調査の対象となる患者さんのカルテから、以下の項目を調べます。

S-1 の治療継続率、RDI (relative dose intensity)、無再発生存期間、全生存期間、副作用モニタリングシートの確認項目である下痢、口内炎、悪心、嘔吐、眼症状、自由記載の内容、保険薬局からの疑義照会の有無とその内容、副作用に対する医師の対応内容、年齢、性別、体表面積、BMI (body mass index)、血清アルブミン、血清クレアチニン値、術式、stage、S-1 投与量、S-1 投与スケジュール、S-1 処方件数を調査する。

【患者さんの個人情報の管理について】

「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に基づいて患者さんのプライバシーを守るよう努めています。結果の発表や出版に際しては個人が特定できるような情報は掲載しませんので、患者さんの個人情報が外部に漏れることはありません。

【研究実施体制】

研究機関：愛媛大学医学部附属病院 薬剤部

研究責任者：教授 荒木 博陽

研究分担者：

准教授 田中 亮裕

主任 河添 仁

薬剤師 矢野安樹子

薬剤師 白石 沙弥

松山大学薬学部

教授 酒井 郁也

特任講師 高取 真吾

学生 吉田 春香

【研究に関する問い合わせ先】

本研究からご自身の情報を除いてほしいという方は、下記の連絡先までお申し出ください。

また、本研究に関する詳細な資料を希望される方や詳細な情報を知りたい方は下記の連絡先まで連絡をお願いします。

研究責任者：准教授 田中 亮裕

電話番号： 089-960-5731

e-mail: akiki@m.ehime-u.ac.jp

【本研究の結果】

薬剤師の介入は、TS-1 初回投与量の適正化に貢献した。現システムは副作用の発見を可能としたが、医師の早期対応には繋がっていないことが明らかとなった。なお、本研究の成果は、第26回日本医療薬学会年会にて発表を行った。